# 第7章　関連事業

## 関連事業の概況

NHKの関連団体は，それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し，NHKグループの一員として，NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に，放送のデジタル化に伴うメディア環境の変革や，放送と通信の連携，社会・経済状況の変化等が進んでいく中でNHKのソフト資産・ノウハウの利活用や社会還元を進め，副次収入等の財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことなどを主な目的として運営されている。

関連団体については，今後も，NHKグループ全体の総合力を高めていくため，効率性と公共放送の質の確保という点で，よりバランスの取れたグループ経営に努め，一層の最適化を進めていく。また，NHKと関連団体の取り引きについても，さらに透明性を高めていく。

### 1．関連事業の体制

2012年度は，関連団体の再編・統合などは実施せず，12年度末現在，NHKの関連団体は，子会社13社，関連会社５社，関連公益法人等９団体の計27団体，総従業員数は6,360人である。(⇒p.744)

### 2．関連団体の決算概要

12年度の関連団体決算は，健保・共済会を除く25団体の単純合計額で，売上高（事業収入）2,906億円（対前年度107億円減），当期純利益（正味財産増減額）89億円（対前年度33億円増）であり，減収増益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は，対前年度４億円減の59億円になった。

今期決算に伴う配当は，対前年度１億円減の30億円で，うちNHKの受取額は，対前年度１億円減の17億円となった。

### 3．団体に対する出資など

12年度は，新たな関連団体への出資や関連団体への増資はなかった。関連団体以外への出資・出捐（しゅつえん）については，一般放送事業者の教育・教養番組の一層の充実を図ること等を目的とする財団法人「放送番組センター」に8,085万円の出捐を行った。

## Ⅰ．関連団体への番組制作委託

NHKでは，コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため，12年度も11年度同様，関連団体への番組制作委託を進めてきた。また，番組の一層の多様化を図るため，関連団体を通じて，番組制作会社にも企画提案を求め，一部の番組制作を委託した。

関連団体への委託では，NHKエンタープライズに，『NHKスペシャル』などの大型企画番組，ドラマ番組（『ドラマ10』『土曜ドラマスペシャル』など），芸能番組（『BS日本のうた』など），アニメ番組（『おじゃる丸』など）の制作，購入番組の日本語版制作などの委託を行った。

NHKエデュケーショナルには，『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『日曜美術館』『ニュースで英会話』など，生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには，大相撲，プロ野球をはじめとするスポーツ番組や，『ワールドWave』『ワールドWaveトゥナイト』『地球テレビ　エル・ムンド』などのニュース・情報番組を委託した。

総合ビジョンには，『アニメ　忍たま乱太郎』などのアニメ番組の制作を委託した。

NHKサービスセンターには，『もうすぐ９時プレマップ』『NHKプレマップ』などの広報番組や各種番組スポットなどの制作を委託した。

NHKプラネットには，『グラン・ジュテ～私が跳んだ日』『のんびりゆったり　路線バスの旅』などの番組を委託した。

日本国際放送には，『J-MELO』『TOKYO FASHION EXPRESS』などの国際放送番組を委託した。

## Ⅱ．放送番組等の二次展開

### 1．映像・音声商品等の発行

NHKエンタープライズからは，「NHKビデオ・DVD」の名称で，『連続テレビ小説』「梅ちゃん先生」「純と愛」，『大河ドラマ』「平清盛」，ドラマ『負けて、勝つ』，韓国ドラマ『シークレット・ガーデン』『太陽を抱く月』，『NHKスペシャル～フローズンプラネット』などの映像商品を発行した。

また，NHKサービスセンターからは，「NHKCD」の名称で『基礎英語１～３』などの月刊語学教材や『名曲アルバム』などの音声商品，ムック本『梅ちゃん先生メモリアルブック』を発行した。

### ２．放送番組および素材の提供

#### （１）企業・団体への番組の提供

一般企業・団体の研修用や展示，イベント用にNHKエンタープライズ等を通じて放送番組を提供した。

#### （２）BS・CS放送事業者への番組提供

NHKエンタープライズを通じて，CS放送事業者等に『大河ドラマ』「龍馬伝」「篤姫」「天地人」，『アニメ～ファイ・ブレイン』『NHKスペシャル～里山』『NHK歌謡コンサート』『タイムスクープハンター』などを提供した。また，NHKグローバルメディアサービスを通じて，『日本オープンゴルフ選手権』を提供した。

#### （３）CATVへの番組提供

NHKエンタープライズを通じて，『連続テレビ小説』「おしん」「あすか」，『大河ドラマ』「篤姫」「利家とまつ」，『きょうの健康』『アニメ　忍たま乱太郎』などを提供した。

#### （４）機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として，NHKグローバルメディアサービスを通じて日本航空，全日本空輸などへ『NHKニュース』を，NHKエンタープライズを通じて日本航空へ『ためしてガッテン』『歴史秘話ヒストリア』を，全日本空輸へ『ドラマ～火の魚』『サラメシ』などを提供した。

#### （５）番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供をNHKエンタープライズを通じて，また，放送大学学園への番組素材の提供をNHKエデュケーショナルを通じて行った。

#### （６）キャラクターの使用許諾

NHKエンタープライズが，『いないいないばあっ！』などの幼児番組や「どーもくん」のキャラクターの使用許諾を行った。

### ３．デジタル事業

NHKエンタープライズを通じて，ブロードバンド事業者に『土曜ドラマ～外事警察』や『NHKスペシャル』『アニメワールド～ツバサ・クロニクル』などを提供した。また，NHKグローバルメディアサービスが行う携帯電話等のモバイル端末向けのサービスに対し，NHKニュースやNHK番組の楽曲，映像クリップなどの提供を行った。

### ４．番組・素材の海外提供

関連団体を通じて，番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。NHKエンタープライズからアニメやドラマ，自然番組，教育番組を提供，日本国際放送からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには，NHKインターナショナルと連携し，「国際版番組ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については，NHKインターナショナルを通じてデジタルクリップを制作し，オンラインによる海外の放送機関や一般団体への提供を増やした。

### ５．放送番組関連の出版

『アジアで花咲け！なでしこたち』『いきものがかりのほん』『日本人は何を考えてきたのか』，『NHKスペシャル』では「生活保護　３兆円の衝撃」「ここまで来た！うつ病治療」「Steve Jobs Special　ジョブスと11人の証言」など，番組に関連した出版物が，NHK出版や外部出版社から発行された。

## 関連団体

# Ⅰ．子会社

### １．NHKエンタープライズ

12年度は「平成24～26年度中期経営計画」の初年度として，中期目標である「貢献」「挑戦」「改革」の３つの大きなテーマを掲げてスタートした。その成果は，大きな話題となった番組の制作やコンテンツ展開の中で形となって現れてきた。

『NHKスペシャル～世界初撮影！ 深海の超巨大イカ』や『シークレット・ガーデン』では，多くの社員が部門の垣根を越えて，ひとつのコンテンツにさまざまな側面から関わることにより，大きな成果を上げた。また，11年来<東日本震災プロジェクト>で取り組んできた「証言記録　東日本大震災」については，13年２月からのDVD発売に際し，社内各部門の連携によりNHK厚生文化事業団への寄付を通して社会貢献に寄与する形を確立した。新規業務では，東京駅等各地会場でのプロジェクション・マッピングや，東京スカイツリーでスタートした展示映像事業とキャラクターショップ出店などがあった。また，４月から当

社施設となった茨城県つくばみらい市の「ワープステーション江戸」では，NEP制作の時代劇番組を撮影するなどの，これまでになかった新たな事業形態にも挑戦した。

具体的な業務分野別では，番組制作関連は，１月13日に放送された『NHKスペシャル～世界初撮影！深海の超巨大イカ』が大きな話題となった。伝説の怪物とされてきたダイオウイカの撮影に，NHK･NEP･ディスカバリーチャンネル（米）のチームが４年がかりで撮影に挑み，世界で初めて成功，放送の視聴率は16.8％（ビデオリサーチ）を記録した。これは日曜の『NHKスペシャル』としてはこの10年間で最高の数字であった。また，放送後に「ワシントンポスト」や「ニューヨークタイムズ」の電子版でも報じられるなど，国外でも大きな反響を呼んだ。

そのほか，総合テレビの昼の番組として定着した『連続クイズ　ホールドオン！』や，サッカーを題材としたアニメ『銀河へキックオフ！！』や『ファイ・ブレイン２～神のパズル』を制作，放送した。ドラマでは，『陽だまりの樹』『薄桜記』『火怨・北の英雄アテルイ伝』などの時代劇のほか，現代劇では『そこをなんとか』や，オムニバス・シリーズ『ラスト・ディナー』が好評を得た。

国際事業関連では，韓国ドラマ『シークレット・ガーデン』が放送はもとより，８月から販売を開始したDVD，ブルーレイ商品も社内の密接な連携によるプロモーション効果も相まって大ヒットを記録した。

映画に関しては，６月に『外事警察』，７月には『劇場版 東京スカイツリー　世界一のひみつ』が全国の劇場で公開された。

映像ソフトの販売では，特にブルーレイディスクの商品の強化をより積極的に進めた。『世界の名峰　グレートサミッツ』『小澤征爾指揮　水戸室内管弦楽団』『NHKスペシャル～宇宙の渚』等，作品ジャンルの幅も広げ，11年の95を大幅に上回る225ディスクを発行した。

直販部門では，映像頒布会『さわやか自然百景』の第Ⅰ期＆Ⅱ期の受注総累計が，１万2,000セットを記録し，直販の基幹事業として定着した。そのほかオンラインショッピングでは，楽天に加え，新たにYahoo！，Amazonにモール出店。客層に応じた商品提案，モール自体のキャンペーンを有効活用し売上増に寄与した。

イベント事業は，「ロボットコンテスト」の高専ロボコンが，第25回の節目の記念大会を迎え，スタジオパークで関連イベントも実施した。そのほか「大学ロボコン」は代々木，「ABUロボコン」は香港でそれぞれ開催され，注目を集めた。「東京JAZZ」は９月に東京国際フォーラムで行われ，内外のアーティストの名演奏が好評を博した。

展示事業では，11年度から取り組んできた「プロジェクションマッピング」を，国内各地で，さまざまな形態で実施した。５月には，開業した東京スカイツリーで，９月には丸の内駅舎保存･復原工事完成を記念して「TOKYO STATION VISION」を東京駅で，３月には会津若松市の主催で「鶴ヶ城プロジェクションマッピングはるか」を鶴ヶ城で実施し，いずれも大勢の観客が来場，大きな反響を得た。デジタル事業では，ロンドンオリンピックのデジタルコンテンツ展開を，PC動画やデータオンライン上での高画質動画を中心に，過去最大規模で行った。視聴者の反応も良好で，新しい楽しみ方を提示し，NHKのオリンピック中継を大きく盛り上げた。

リスクマネジメント，コンプライアンスの推進も行った。社内の情報セキュリティを高めるため取り組んできた，情報セキュリティのJIS規格・ISMS（情報セキュリティ・マネジメント・システム）認証の３年目として，制作本部と国際事業センターが新たに認証を取得，当初の目標を完全に達成した。

## ２．NHKエデュケーショナル

Eテレを中心に年間およそ１万本のNHK番組を制作するかたわら，番組関連テキストの編集，イベントの企画・制作，独自の映像ソフト制作，デジタルコンテンツ制作，キャラクター事業など，さまざまな分野で事業展開を図っている。

12年度は，Eテレでは『オトナへのトビラTV』『団塊スタイル』『趣味Do楽』『東北発☆未来塾』『おとなの基礎英語』『スーパープレゼンテーション』『デザインあ』をはじめ，『日曜美術館』『100分de名著』『きょうの料理』『囲碁フォーカス』『将棋フォーカス』『きょうの健康』『すイエんサー』『名作ホスピタル』『大科学実験』『できた できた できた』『Rの法則』『おかあさんといっしょ』『にほんごであそぼ』『NHK高校講座』『語学講座』など，また，特集として『新世代が解く！ニッポンのジレンマ』『ETV特集』の「テレビが見つめた沖縄」などを制作した。

総合テレビでは『あさイチ』『サラメシ』のほか，特集番組『妄想ニホン料理』『マサカメTV』『独占公開！東京駅復活大作戦』『にほんごであ

そぼ　元気コンサート　in　福島』などを制作した。

衛星放送では『美の壺』『写ねーる』『コズミック　フロント』のほか，特集番組として『明日へのメッセージ～瀬戸内寂聴　心を語る』『欽ちゃんの東北びっくりグルメAtoZ！』などを制作した。

このほか，「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「おかあさんといっしょスペシャルステージ」などのイベントの企画・運営，放送大学の授業番組の制作を行った。

## ３．NHKグローバルメディアサービス

NHKの報道部門とスポーツ部門を支援する関連団体として，フルデジタル時代にふさわしい質の高い多様なニュースや，魅力ある番組を安定して供給するための体制を強化した。

NHKからの委託では，BS1を中心とするニュース制作，番組制作，スポーツ中継，番組に文字を付加する字幕制作，デジタル放送のデータ制作，映像取材や編集，映像の海外送受信のほか，モバイル・インターネットのデジタルコンテンツ関連事業など，多角的な業務を引き続き展開した。

各分野のうち，まずニュース系では，『BSニュース』『ワールドWave』『東京マーケット情報』『NHK手話ニュース』を軸に，ニュースの制作・送出に当たるとともに，新たに海外向けのラジオ放送『日本語ニュース』を受託した。

番組系では，年度前半に，ロンドンオリンピック関連の『ヒーローたちのオリンピック』『アスリートの魂』などの特集番組，年度後半に，衆院選への対応や，テレビ放送開始60年関連の特集番組などを放送した。また，東日本大震災関連では，『明日へ～支えあおう～復興サポート』，『NHKスペシャル』では，「津波はどこまで巨大化するのか」「ミラクルボディー～ウサイン・ボルト人類最速の秘密」などを制作した。一方，インターネット時代の新しいニュース番組『NEWS WEB　24』などの新番組を立ち上げた。

字幕制作では，新たに総合テレビの『ひるブラ』などの生放送番組に字幕を付与したほか，EテレやBSプレミアムでも字幕付きの番組を拡充した。特に，スポーツ中継番組での字幕化が進み，ロンドンオリンピックでは，前回の北京大会の2.4倍にも増加した。また，首都圏や大阪局・名古屋局での地域ニュース番組の字幕付与を開始したほか，DVDの字幕制作も受注した。

データ放送では，首都圏をはじめ北関東や関西のNHK各局のデータ放送と各種スポーツのデータ放送を制作し，画面を見やすくするためのコンテンツの大幅な改修を実施した。また，放送技術研究所が開発したハイブリッドキャストのコンテンツ制作を受注し，５月の技研公開やロンドンオリンピックに合わせた実証実験で公開した。

スポーツ部門では，ロンドンオリンピックに25人を現地派遣，国内の制作業務に約200人の体制で当たり，地上波（総合・Eテレ）で過去最長の274時間，BS1，ラジオを合わせ700時間を超える放送を送出し，視聴者の関心に応えた。

このほか，MLBでは注目のダルビッシュ投手が先発した全試合をライブで中継したほか，プロ野球クライマックス・シリーズやJリーグの終盤でも，マルチ編成を活用したライブ中継に注力した。

バイリンガルセンターでは，『BSニュース』やイギリス，ドイツ，フランス，ロシア，中国，韓国など，外国の放送局のニュース番組を日本語に通訳して放送するワールドニュースを中心に，NHKから受託し制作した。また，『ニュース７』や『ニュースウオッチ９』などで英語による副音声の放送を担当し，日本在住の外国人や外国人旅行者への情報提供に貢献した。

国際回線のコーディネート事業では，日米欧を結ぶ新専用線やIP専用線の運用を行い，「アメリカ大統領選挙」「アルジェリア人質事件」「ロンドンオリンピック」など，緊迫した世界情勢からスポーツ中継まで，多彩な業務に当たった。

膨大なNHKのニュース情報をデータベース化するアーカイブス事業では，東日本大震災の取材映像を精査しデータベース化に取り組むとともに，新たに，過去のニュース同録のデータベース化にも着手した。

モバイル事業の携帯サイト「NHKニュース＆スポーツ」は，NHKニュースやスポーツ，気象情報を中心に，生活に必要なさまざまな情報を有料でサービスしている。東日本大震災をはじめとする災害時には，NHKの災害報道の一翼を担うサイトとして，情報を無料提供している。

## ４．日本国際放送

日本から世界に向けた情報発信の強化を目指し，テレビ国際放送の番組制作，ニュース編集，送出，受信環境整備などのNHK受託業務のほか，JIB独自の放送やインターネット配信など自主事業に取り組んだ。

受託番組は，定時では『J-MELO』『journeys in japan』『TOKYO EYE』『TOKYO FASHION EXPRESS』，特集では『Forbidden Kyoto』『Rising Artists』『AMAZING ARTS OF JAPAN』『The Sprit of Zen in a Japanese Garden』『Anime Evolution』『Sustainable Fishing Villages』などを制作，『OHENRO』はアジア旅番組国際グランプリ観光庁長官賞を受賞した。

12年度末にはNHKワールドTVの24時間視聴可能世帯数が１億5,972万世帯となり，送出業務ではテレビ国際放送の安定送出に努めた。

主なJIB独自放送枠では『Wishing on Stars, Seeing the Light』『Breathing Atolls / Creating Art in the Maldives』『Biodiversity for All』『IN GOOD SPIRITS / SHOCHU & AWAMORI』『Global Faculty Japan』『Cerrado：Land for Innovation』『Wake Up Call / What we must do for our Blue Planet』『Coexistence for East Asia』『Manabi-ya/ Learning & Living abroad in Japan』，震災復興シリーズ『FORWARD』（11年度から継続）全42本の内27本と総集編，４周年記念番組『RESILIENT JAPAN』を制作・放送。そのほか，『Connecting to the Future』『ばら・す』などの番組では，民放と協力を図り，国内および海外に発信した。

また，日本の音楽を通じて情報発信を行うインターネットラジオ事業ENJ［Enjoy Network Japan］を企画し，２月から24時間配信している。

## ５．NHKプラネット

NHKプラネットは地域に拠点を持ち，地域放送サービスの充実と，ネットワークを生かした地域情報の全国・世界発信，それに地域に貢献するイベントの企画・制作を行っている。12年度の全国発信番組では『あさイチ～ピカピカ☆日本』『ひるブラ』『福祉ネットワーク』『グラン・ジュテ～私が跳んだ日』『のんびりゆったり　路線バスの旅』を，国際発信番組では『journeys in japan』『Mapping Kyoto Streets』を受託し，各拠点で分担して制作した。

東京本社では，上記のほか震災復興支援の番組『きらり！えん旅』，『NHKスペシャル～奇跡の湿原　尾瀬』『新日本風土記』などを制作した。

近畿総支社では，『歴史秘話ヒストリア』『俳句王国がゆく』『バラエティー生活笑百科』などの全国発信番組の制作，「古事記1300年シンポジウム」「全国高校生伝統文化フェスティバル」などのイベント企画，「陽明文庫名宝展」などの展覧会，NHK大阪ホール管理運営などを実施した。

中部支社では，『情報フレッシュ便　さらさらサラダ』『Uta-Tube』『金とく』『めざせ！会社の星』などの番組制作事業，「東儀秀樹全国ツアー」「辻村寿三郎人形展」「新美南吉生誕100年」などのイベント事業，「変容の危機にある無形民族文化財」記録作成事業などを実施した。

中国支社では，大河ドラマ関連特集番組『瀬戸内海 清盛500キロクルーズ』，『平清盛 日宋貿易にかけた夢』などを制作，「ひろしまフラワーフェスティバルのステージショー」などのイベント事業，「JR九州安全創造館研修映像」などのソフト制作事業を実施した。

九州支社では，『きん☆すた』『ぐるっと８県九州沖縄』『ETV特集～原田正純 水俣　未来への遺産』などの番組制作事業，「平山郁夫シルクロードの軌跡展」「大英博物館古代エジプト展」「ボストン美術館日本美術の至宝展」などの事業を実施した。

東北支社では，大震災から２年目を迎え復興支援と被災者に寄り添う番組『証言記録　あの日わたしは』『被災地からの声』の制作にあたった。また，『ここに技あり』『メンコイらぼ』『ひるはぴ』『てれまさむね』等の番組制作や東北発の「松本竣介展」全国巡回展などのイベントを実施した。

北海道支社では，『つながる@きたカフェ』『さわやか自然百景』『北スペシャル～クイズ防災力向上委員会』などの番組制作，「NHK交響楽団演奏会」「北の音楽隊～音と楽器のワンダーランド」などのイベントを実施した。

## ６．NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ，展覧会・博覧会，コンサート，フォーラム・シンポジウム，各種式典，講演会などのイベント事業を中心に，普及啓発用映像ソフト制作などを実施した。

12年度は，展覧会・博覧会では，特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」，「大英博物館　古代エジプト展」「エル・グレコ展」，特別展「中国王朝の至宝」，特別展「書聖　王羲之」，NHK大河ドラマ特別展「平清盛」，特別展「出雲-聖地の至宝-」，「ジェームズ・アンソール展」「尊厳の芸術展」「ベニシアと仲間たち展」など。

番組関連イベントでは，「NHK音楽祭」「NHKニューイヤーオペラコンサート」「NHK古典芸能鑑賞会」「NHKおかあさんといっしょファミリーコンサート」「NHKバレエの饗宴」「NHK公開復

興サポート　明日へ」など。

このほか，公共文化施設における子どもイベントの開催や，「第13回地域伝統芸能まつり」「東アジア共生会議」「選定保存技術関連シンポジウム」「ボストン美術館・浮世絵デジタル事業」「食と農林漁業の祭典～農業フロンティア2012」「ふるさとの食　にっぽんの食～全国フェスティバル」などを実施した。

## ７．NHKアート

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行，大道具等美術用品の製作・運用，装置，装飾，衣裳，メーク，かつらなど）やセットデザイン，グラフィックス・CG等のデザイン制作を行う総合美術会社。また，特定建設業・一級建築士事務所の資格を持ち，文化施設・イベント等の企画，制作，設計・施工，運営までトータルに業務を行うほか，NHKホールをはじめとする10のホール・会館の舞台・照明・音響等の操作・運営管理を行うなど，テレビ番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

12年度は，NHK番組関連イベントの「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「ロボットコンテスト」「大河ドラマ『八重の桜』展示館」「技研公開」「渋谷DEどーも」「NHK文化祭たいけん広場」「ふるさとの食　にっぽんの食」などの会場設計･施工，展示制作等を担当した。また，ドームイベントの「バラとガーデニングショウ」「キルトフェスティバル」「テーブルウェア・フェスティバル」「世界らん展」，地域活性化イベント「地域伝統芸能全国大会福島」「地方銀行フードセレクション」「日本を元気にするよい仕事おこしフェア」「産業交流展」，アジア最大級の旅の祭典「JATA旅博」などの企画，制作，設計・施工，運営業務を行った。

## ８．NHKメディアテクノロジー

テレビ，ラジオ，データ放送などの制作・送出および高精細（8K・4K）・立体ハイビジョン（3D）を含めたロケ・中継業務を主とする放送技術と，番組の編成・送出や報道業務を支援する管理システム，受信料の収納管理など，情報システムの設計・開発・運用を主とする情報技術を併せ持つ，放送制作技術・ITソリューション提供企業「㈱NHKメディアテクノロジー（MT）」として会社統合から５年目を迎えた。

12年度は「ロンドンオリンピック」の技術支援対応として，放送技術関連では，テレビ・ラジオで長時間にわたる放送業務に従事するとともに，国内外のスーパーハイビジョン（8K）展示なども実施し，最先端のメディア技術への注目度を高めた。情報システム関連でも新たな取り組みとして「NHKオンライン」のオリンピック特設サイト構築を技術支援し，インターネット視聴の定着やNHKと視聴者の結び付きを深める役割を担った。

秋には「トライアスロン世界選手権横浜大会」「IMF世界銀行会議」「シニアオープンゴルフ選手権」などの大規模なイベントで，これまで培ってきたMTの技術力を発揮し，内外関係各所から高く評価された。

10月から初めての受信料値下げに対応して，複雑多様な割引制度を抱える受信料システムを改修し，受信料額の変更と改定差額の登録などの移行を確実に処理した。また，12月の「第46回衆議院選挙」「東京都知事選挙」でもインターネット開票速報のシステム運用に対応し，万全の態勢で無事完遂した。

さらにNHKの「ニュース動画配信設備」を全地域放送局内に整備し，視聴者のニーズに応えた各局ローカルニュースの配信実現にも寄与した。

東日本大震災被災地の復興支援についても，11年度から継続してさまざまな取り組みを行ってきた。12年度の主な取り組みとしては，東北大学アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」において，3D技術で協力支援を行った。

また，南相馬市で被災１年後に開催された恒例行事「野馬追」を3Dで自主取材し，JRAから復興支援に貢献したと評価され，各地域の避難所などで上映，被災された人々の心を活気づける役割を果たした。

## ９．NHK出版

NHK出版は，NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌，放送関連以外の書籍・雑誌等の出版・販売（電子版も含む）のほか，音楽著作権の管理等を主業務としている。

12年度放送テキストは『きょうの料理』などの家庭向けテキスト，『基礎英語』①②③や『テレビでハングル講座』などの語学系テキスト，『趣味Do楽　藤田寛之　シングルへの道』や『100分de名著』などの趣味・教養系テキスト等，年間100点余りのタイトルを発行した。なお，新規テキストとしては，旅行会話などを学ぶ『おとなの基礎英語』，発音を中心に中学校英語の基礎を学ぶ『テレビで基礎英語』，会話で使える英語のト

レーニングを行う『英会話タイムトライアル』の英語系３誌のほか，従来の『まいにち中国語』『まいにちハングル講座』から中級者向けの内容を独立させた『レベルアップ　中国語』『レベルアップ　ハングル講座』の２誌を創刊した。

放送関連では，12年度は大河ドラマ関連として『NHK大河ドラマ・ストーリー　平清盛』の後編・完結編を発売。また，13年『大河ドラマ～八重の桜』については，ノベライズ（全４巻のうち前半の２巻），『NHK大河ドラマ歴史ハンドブック』，『NHK大河ドラマ・ストーリー』の前編を発売した。そのほか，『連続テレビ小説～梅ちゃん先生』のノベライズ下巻およびドラマ・ガイドのPart２，同じく『連続テレビ小説～純と愛』のノベライズ上・下巻およびドラマ・ガイドのPart１，２，韓国ドラマ『太陽を抱く月』のドラマ・ガイドをそれぞれ発売した。

放送関連以外では，NHK出版新書『知の逆転』，NHKブックス『団地の空間政治学』などを発売。翻訳書では『Think Simple』『MAKERS』などを刊行した。実用書では，『別冊NHKきょうの料理　食材別おいしい冷凍大百科』などを刊行した。

また，電子書籍として『大河ドラマ』関連作品，『NHKさかのぼり日本史』シリーズなどのほか，電子アプリでは『語学プレーヤーアプリ』による音声コンテンツの配信を引き続き行った。

## 10．NHKビジネスクリエイト

NHKビジネスクリエイトは，NHKグループの放送支援，インフラ支援および事務支援を一元的に実施する総合サポート会社として，各分野の専門性を生かした事業活動を展開している。

放送支援分野では，11年３月の東日本大震災発災以降２年間に，取材の最前線などへ延べ運行車両数4,200台，延べ運行要員数6,000人を動員し，安全な放送車両運行で災害報道に貢献した。

また，『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』『紅白歌合戦』などの放送台本等の印刷のほか，番組編成関連データの情報処理を行っている。

インフラ支援分野では，NHK放送センター，千代田放送会館，NHK放送技術研究所，NHK福岡放送会館などのセキュリティ確保，建物・設備等の管理および環境整備をはじめ，電気・空調・給排水などライフラインの安定供給を行うなど，公共放送NHKの事業基盤を支えている。また，NHK関連団体等が入居するビルの所有・管理を行っており，安全で安心なオフィス・スペースを長期的に提供するため，11年度に引き続き，計画的な耐震補強工事を実施した。

事務支援分野では，NHKの調達・管財関連業務，NHK職員等の給与計算・採用事務関係業務のほか人材派遣事業を行っている。また，12年度は，新たに大阪，名古屋，広島に支社を開設し，NHKの地域放送局における事務業務の受託を開始したほか，大阪・名古屋両局でのニュース生字幕制作業務に着手した。また，13年10月を予定しているNHKグループを対象にした総務業務のシェアードサービスの運用開始に向けた準備に取り組んだ。

12年度は，平成24～26年度中期経営計画『公共放送を支える創造企業へ』の初年度として，新たな経営理念のもと，多様な事業展開と業務改革に取り組んだ。今後とも，NHKグループを取り巻く社会情勢の変化を的確に捉え，さまざまな分野で専門性を発揮し，公共放送NHKを支えていくこととしている。

## 11．NHKアイテック

放送・通信・情報分野での総合技術会社として，送信・受信・映像・建築関連技術をベースに，コンサルティングから設計・施工・保守まで一体とした事業を展開した。

12年度からは，NHK送信設備の保守業務を全面的（関東地域は13年度から）に担当し，定期保守から緊急出向まで，NHKグループ会社として公共放送の「放送電波確保」に貢献した。今後，ほぼ全国をカバーすることが予定されている携帯端末向けマルチメディア放送の基地局，ケーブルテレビ，民放等への送出設備，伝送設備，法定同録装置等の整備をした。

NHK菖蒲久喜ラジオ放送所の敷地内における，太陽光発電設備のメガソーラ―の整備工事を完成した。13年春の東京スカイツリーへの送信所移転に伴う受信対策や，地上テレビ放送の新たな難視対策に向け，放送事業者が実施する受信対策を進めた。

## 12．NHK文化センター

NHK文化センターは，全国50教室（13年３月末現在）で，教養・趣味・暮らし・芸術・健康など，７万に及ぶ多彩な講座を展開している。会員は全国で約27万人である。

12年度は，「第26回国際交流祭inフィレンツェ」を実施し，展示，実演，舞台公演などの参加者は140人，入場者は1,420人であった。

また，NHKからの受託業務で「デジタル放送活用術」を開催。NHKオンデマンドやロンドン五輪，緊急報道などを体験する内容で，合計38教室で624人が参加した。また，『NHKスペシャル～エベレスト～世界最高峰を撮る』『趣味の園芸』『日本の里山50選』『NHKスペシャル～宇宙の渚』など番組関連の講座を開催（計19教室 842人）。また，NHK公開セミナーでは『大河ドラマ』『コズミック　フロント』『100分de名著』などの番組出演者らを講師に迎え，全国18会場で開催し，総入場者数は4,903人であった。

### 13．NHK営業サービス

12年度を初年度とする経営計画「NBS経営プラン24-26」に基づき，受信料収入の確保とNHK営業活動の効率的な業務展開を支援し，公共放送，放送メディアの発展に寄与する観点から，着実な遂行に努めた。12年度は，段階的に進めてきたNHK営業の事務情報処理業務の全面受託が完結。また，受信料の値下げに関する業務についても，社内関係部門の総力を結集し，的確に対応。このほか，事業所・集合住宅や渋谷区における受信契約取次および受信料収納，全国４か所のコールセンターにおける電話を中心とする視聴者対応，地域スタッフや法人委託訪問要員に対する講習や，教育用映像資材の制作等の教育支援，営業活動に資するパンフレットなどの企画・編集・制作等の業務を実施した。

自主事業としては，テレビ送信所のスカイツリーへの移転に伴う受信相談業務を受注したほか，NHKグループのソフト・コンテンツの販売受付やNHK主催イベントでの販売業務の支援に関する試行など，新たな事業の開発にも取り組んだ。当社では膨大な個人情報を適切に管理するため，業務プロセス・体制を不断に見直し，00年から６回連続して「プライバシーマーク」を取得。13年１月にはプライバシーマーク認証機関であるJIPDEC（日本情報経済社会推進協会）から個人情報保護を徹底している貢献事業者として表彰を受けた。

## Ⅱ．関連会社

### １．放送衛星システム

株式会社放送衛星システム（略称B-SAT）は，BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し，その管制，運用のほかアップリンク業務，全局EPG（電子番組表）のデータ集配信業務を行い，BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担う。

12年度は，日本に割り当てられているBS放送用の全周波数（12中継器）を使って，12年３月に，地デジ難視対策衛星放送（衛星セーフティネット）を含め39番組となったBSデジタル放送を，継続して視聴者に届けた。それを確実に果たすため，12年６月に，放送衛星BSAT-3a・3b・3cの現用３機への12中継器の最適配置を実現した。

12年度は，12年度から14年度までの３年間の事業運営の指針として策定した「B-SAT 中期事業計画」の初年度にあたり，その重点事項の具体化に取り組んだ。その一環として，どのような状況の中でもBS放送を良好な状態で継続するための新たな施策として，現有拠点以外からのバックアップ体制の検討とともに，受信モニター局の整備を進めた。

01年４月から運用し設計寿命を超えた放送衛星BSAT-2aの軌道外投棄を，13年１月に終了した。

### ２．総合ビジョン

アニメーションおよびアニメーション関連番組の企画・制作を行っている。

12年度は，Eテレの長寿番組『忍たま乱太郎』をはじめ，BSP『キングダム』などのアニメ番組を制作した。

『忍たま乱太郎』は12年度，放送開始から20年を迎えた。アニメ関連番組では『忍たま乱太郎特番』を制作し，シリーズ第１話をはじめ，懐かしのエピソードなどを紹介した。併せて，これらの番組のDVD化，キャラクター商品化，ミュージカル等催し物化，海外展開など，メディアミックス事業にも積極的に取り組んだ。

また，「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」の企画・運営に参画した。

### ３．NHK Cosmomedia America, Inc.

NHK Cosmomedia America はアメリカにおける番組制作と国際映像展開の拠点を目指している。制作の大きな柱は，NHK番組の制作とリサーチ，通訳，機材の手配などのコーディネート業務。MLB（大リーグ野球）などのスポーツ中継業務も請け負っている。

国際映像展開では「TVジャパン」のチャンネル名でアメリカ，カナダ在住の日本人，日系人向けにNHK番組を中心とする24時間の有料配信事業を行っており，契約者数は７万9,000を超え，

380のホテルでも視聴可能。なお，１日平均５時間はノンスクランブルの「邦人向け国際放送」である。

### ４．NHK Cosmomedia (Europe) Limited

NHK Cosmomedia（Europe）の事業の大きな柱はNHKの制作能力，ノウハウを最大限生かした番組の制作およびリサーチ，通訳，機材の手配などのコーディネート業務と，「JSTV」のチャンネル名で欧州，北アフリカ，中東向けにNHK番組を中心に放送する24時間の有料配信事業である。

JSTV事業では，衛星やCATVを通じて60を超える国に放送を提供しており，契約数はおよそ7,900。同地域内の550以上のホテルでも視聴可能である。なお，１日平均５時間は「邦人向け国際放送」としてノンスクランブル放送となっている。

### ５．ビーエス・コンディショナル　アクセスシステムズ

略称は「B-CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴，それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B-CASカード）の発行・管理を行っている。

12年度は，B-CASカードを不正に改ざんする事案が発覚したため，技術的な対応を進めるとともにカード流通の適正化に努めた。12年度のカード発行枚数は1,242万枚，累計発行枚数は１億9,551万枚となった。

また，社会的インフラを担う企業として，引き続きコスト削減に努め，利用者負担の軽減を図った。

## Ⅲ．関連公益法人等

### １．NHKサービスセンター

公共放送の普及・浸透と視聴者サービスを担う財団として，視聴者とNHKとを結ぶさまざまな広報および視聴者サービス活動を推進した。

「NHKふれあいセンター」では，電話，メール，FAX等による視聴者からの要望・問い合わせに対し，迅速・的確な対応に努めた。電話が集中する午前中の電話の一次対応席を，12年３月から増席し，視聴者の待ち時間の短縮と応答率の向上を図った。

週刊番組情報誌『ステラ』や月刊誌『ラジオ深夜便』の発行，NHK広報番組の制作，語学講座番組の音声テキストCDの発行，各種の番組展示や催し物，印刷物などによって，NHK番組の広報普及活動を推進した。13年２月１日のテレビ放送開始60年を記念し，ステラMOOK『思い出テレビ60年』を発行した。また，年間6,500万人の羽田空港利用客をターゲットにしたデジタルサイネージ「羽田フューチャービジョン，羽田エアポートADビジョン」を新たに年間契約し，NHK番組を長期的・戦略的に広報する場を開拓した。語学講座の配信では，引き続き，CDコンテンツのインターネット配信，有料ダウンロード配信，iPhone・iPad向けにアプリケーションソフトの配信を行った。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHKみんなの広場ふれあいホール」「NHK放送博物館」では，来館者を対象としたイベントや多彩な視聴者サービスを実施した。NHK放送博物館では，13年２月のテレビ放送開始60年に向けた企画展を，３期に分けて年間を通して開催し，テレビ放送史を概観した。

展示業務では，『連続テレビ小説～梅ちゃん先生』の番組オープニングタイトルで使用されたジオラマ作品を中心に，山本高樹「昭和幻風景ジオラマ展」を全国６会場で開催し，延べ69日間で14万人の観客を集めた。

また，東日本大震災の映像を，環境省が整備した「浄土ヶ浜ビジターセンター」に提供したほか，東日本大震災の復興を応援するため「宮沢賢治・詩と絵の宇宙展」などを実施した。

このほか，美術展など催し物の実施，文化・教養などの音声・映像ソフトや番組記念品の制作・頒布，語学・音楽・落語・朗読の配信事業会社への提供など，多彩な事業を展開した。

財団の公益活動である社会奉仕業務については，『ラジオ深夜便』の全国老人福祉施設への寄贈，日本点字図書館の点字週刊誌『NHKウイークリーガイド』の編集・発行への助成などを，引き続き行った。

なお，政府の公益法人制度改革に伴い，13年４月１日，一般財団法人に移行した。

### ２．NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金など，公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供や，支援業務を行っている。また，放送制作のノウハウと映像コ

ンテンツを生かして，国際交流や海外放送機関への取材協力業務を行い，相互理解の促進を図っている。

12年度は，外国の放送機関に対して，主にJICAからの委託でさまざまな支援や研修を行った。独立して間もない南スーダンの民主化支援の一環として「南スーダンTV・ラジオ組織能力強化プロジェクト」を開始。また，ベトナム国営TVの研修協力，バングラデシュでの番組制作支援など，アジアの国々の放送機関への協力事業も行った。沖縄での３年間にわたる途上国の研修は２年目を迎えた。

IMF世界銀行年次総会が，10月９日から14日まで東京と仙台市で開催され，188か国の財務相・中央銀行総裁らが参加した。世界各国のメディアの関連行事取材を支援するため，ホストブロードキャスターとしてIBCを設営し，運用・管理を行った。海外放送機関への番組の提供面では，外務省の文化無償協力と国際交流基金の事業として，合わせて７か国８機関に668本の番組を提供した。在外公館や大学などの国内外の公的機関に，放送以外の目的で提供したDVD番組は95本であった。

国際版番組の制作については，放送番組国際交流センターからの委託によるもののほか，東北観光振興に向けた映像コンテンツの制作を行った。

また，日本や世界のメディア芸術を紹介する文化庁の２つの事業を受託した。このうち「海外メディア芸術祭参加事業」では，展示・上映・イベントを18のフェスティバルで実施した。また,「国内巡回事業」では18の地域を巡回し，メディア芸術祭のPRを行った。

中国関連の事業としては，７月に新疆ウイグル自治区で，NHKと中国ラジオ映画テレビ総局による「日中国交正常化40周年国際共同制作会議」を開催したほか,災害緊急報道技術研修を行った。

一方で，国際版番組ライブラリーの自主制作も進めた。12年度は，NHK番組104本（英語版58本，仏語版10本，スペイン語版26本，アラビア語版10本）と自主企画番組49本を制作した。

外国放送機関に対する取材協力は，14か国・23放送機関，1,079件の中継・伝送業務を行った。

NHKの映像素材の国際展開を強化するため，新たに作った「NHK ビデオバンク」の普及活動を実施した。

国際コンクール参加番組としては,48本を制作,さらに，NHKワールドTV用にも定時番組『美の壺』など50本の英語版を制作した。また,『連続テレビ小説～カーネーション』のME版や英語版台本の作成を始めたほか，地方自治体と連携した観光・語学学習番組『Meet＆Speak』の制作を継続した。

海外の視聴者からNHK国際放送に寄せられる意見や要望，また，海外の委嘱モニターから送られてくるモニター報告を整理し，報告した。

海外からNHKへの訪問者に対して，懇談やハイビジョン視聴の設定，スタジオパーク見学の案内などを行った。12年度は73の国と地域および国際機関から，要人を含め115件，1,110人がNHKを訪問し，このうち43件の接遇を行った。

「第39回日本賞」や,「ABUデジタ・ティーンズ」「アジア教育プロデューサー会議」の運営などを実施した。「日本賞」には335本のエントリーがあった。

## ３．NHKエンジニアリングサービス

NHKの技術開発成果を広く提供する技術協力や，保有特許の利用促進，新技術の実用化開発，デジタル放送の普及に向けた調査業務などを実施した。

12年度は，新たな難視解消に向けた地上デジタル放送受信技術調査，辺地共聴のBSデジタル放送や，課題地区世帯の受信状況調査，および地上デジタル放送送信設備の東京スカイツリー移行に伴う調査を実施した。

スーパーハイビジョン普及促進では，ロンドンオリンピックの国内パブリックビューイングの技術運営，IBC2012，CEATEC2012，全国NHK放送会館等での展示,『紅白歌合戦』の生パブリックビューイングも実施した。さらに，カメラの高感度化，小型化に向けて，放送用および産業用の単板カメラの研究開発に着手した。

また，話速変換技術による「らじる★らじる」のアプリとしての利用，美術館などの映像・音声設備の整備・保守，超高層ビルによるテレビ受信障害予測，標準画像の頒布などにより新技術の普及，技術者育成に努めた。

## ４．NHK放送研修センター

NHK職員に対する研修は，プロフェッショナルとしてのコンプライアンスを備えた，信頼できる公共放送の担い手の育成を目的とし，入局から３～４年を「人材育成重点期間」として実施する基礎研修のほか，コンプライアンスの推進，職員倫理・公金意識の徹底，管理職・デスク層のマネジメント力の強化，各職員層に合わせた能力開発や意識改革を推し進める研修などを実施した

（105研修161回，受講者数4,737人）。

このほか，eラーニングにより「NHK倫理・行動憲章，行動指針」や「職場でのハラスメント」など12コースを実施した（受講者数２万5,691人）。

民間放送局，海外放送局，ケーブルテレビ局，制作プロダクションに対しては，番組制作のノウハウ，放送技術の基礎や最新技術の知識・技能習得を図る研修を実施した。

民放連関連で，放送倫理をテーマとする「放送人基礎研修」や若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施したほか，ケーブルテレビ局を対象に「番組制作コース」と「伝送技術コース」を設け，新入社員や初心者を対象とした専門研修を実施した。

また，海外の放送局に対して，国際協力機構（JICA）からの委託による放送技術や番組制作の研修を実施した。

ことばコミュニケーション事業では，「日本語センタースクール」「話しことば通信添削講座」「朗読事業」「先生のためのことばセミナー」「ビジネス界を対象にしたセミナー」「放送支援のためのセミナー」を実施した。また，次世代の放送人育成につなげるための事業として「大学生セミナー」を実施した。教育現場を対象としたことばコミュニケーション事業では，大学・専門学校・小中高校で28の講座を実施した。一方，ことばコミュニケーションのノウハウを社会に還元する企業・団体研修は，76の企業・団体からの要請に応えた。

そのほか，放送番組のアナウンス等業務では，ラジオ番組『ことば力アップ』のテキストを執筆し番組にも出演したほか，放送のバリアフリー化を目指すNHKの生対応の字幕放送や，解説放送の拡充に協力した。また，今後の職員研修やビジネス研修に活用するため，東証一部上場企業を対象に，６年ぶりに「ビジネスコミュニケーション調査」を行い，121社から回答を得た。

## ５．日本放送協会学園

NHKの教育番組を利用して通信による高等学校教育を行い，放送の利用促進に寄与しているほか，NHK教育番組の充実改善に協力している。

また，生涯学習通信講座や介護福祉士，社会福祉士の国家試験受験資格取得のための通信教育を行っている。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校で，本校のほか，全国33の協力校等でスクーリングを実施。08年度から単位制の教育課程に変更，また，11年度からは海外在住の生徒向けに，海外eコースを新設した。

生徒総数3,758人，卒業生1,177人。これまでの卒業生総数は６万9,278人となった。

〔通信制福祉教育〕

専攻科社会福祉コース介護福祉士専攻（学習修了後，実務経験９か月で「介護福祉士」の国家試験受験資格を取得）は，学生総数689人，修了生226人，修了生総数は３万4,049人。国家試験の合格率は全国平均66.4％に対し72.2％。12年10月には実務者研修コースを開講。

社会福祉士養成課程は，社会福祉士国家試験受験資格を２年間で取得する一般養成科に加え，１年間で取得する短期養成科を12年４月開設。学生総数518人，修了生250人，修了生総数2,462人。国家試験合格率は全国平均18.8％に対し41.6％。

〔生涯学習通信講座〕

短歌，俳句，書道，絵画，写真，語学，実用講座など210講座・コースで，国内外で年間約９万5,000人が受講した（対面型オープンスクールを含む）。これまでの受講者総数は，延べ約539万6,000人に達した。また，学んだ成果の発表，実践の場としての作品展や短歌・俳句・川柳大会，学習効果を高めるためのスクーリングや学習の旅には，年間４万5,000人の参加があった。

## ６．NHK交響楽団

オーケストラ演奏により，音楽芸術の向上発展を図り，その社会的文化的使命を達することを目的とした公益財団法人である。12年度は「スクリャービン／法悦の詩」（ロリン・マゼール指揮）や「レスピーギ／ローマ三部作」（シャルル・デュトワ指揮）などを定期公演で演奏したほか，日中国交正常化40周年記念として，９月に中国公演を北京，天津，上海の３都市で実施した。

12年度は定期54回，特別９回，地方10回，契約36回，海外３回の公演を実施した。

これらの公演のほか，12年度は事務局の組織改正により社会貢献プロジェクトを新設し，より積極的にアウトリーチ活動を展開した。N響メンバーが小・中学校を訪問する「NHKこども音楽クラブ」をNHKと共催で９か所で開催，病院のロビー等で室内楽を演奏する「病院コンサート」を４か所で開催，また，東日本大震災復興支援のため東北地方８か所で室内楽を実施した。

放送面では，N響の全定期公演がFMで生放送

されたほか，録画放送は12年12月公演まではBSプレミアムで，13年１月公演以降はEテレで放送した。また，解説付き放送がEテレ『ららら♪クラシック』で行われた。このほか，『大河ドラマ～八重の桜』テーマ曲の音楽収録を行った。

また，15～16年のシーズンからパーヴォ・ヤルヴィを首席指揮者に迎えることが決定した。

このほか，７月からホームページを刷新し，指揮者の動画インタビューを掲載するなど，内容を充実させた。

## ７．NHK厚生文化事業団

厚生文化事業団は，変わりゆく時代のニーズに応え，社会福祉の増進に資するため，NHKグループの社会福祉法人として，放送と連携しながら，障害者福祉，高齢者福祉，ボランティア促進事業などを実施している。

12年度は，引き続き東日本大震災の被災地支援に取り組んだ。地域福祉を支援する「わかば基金」に「東日本大震災被災地支援部門」を新設し，被災地の小さな福祉グループの地道な活動を支援した。

また，震災時の福祉現場の行動や体験を検証する「震災フォーラム」を開き，何を学び伝えていくべきかを考えた。震災義援金を受け付けたほか，NHK復興支援ソング「花は咲く」の楽曲著作権料を，義援金として被災地に贈った。

このほか，事業団の主な事業は次のとおり。

○子どもの発達相談会を実施したほか，発達障害のある子どもを対象にした療育キャンプを行った。

○障害や精神疾患に関する最新情報と支援の在り方を伝える「NHKハートフォーラム」を各放送局とともに開催した。

○「認知症フォーラム」を全国で実施し，地域放送で放送された。

○高齢者の健康と生きがいをテーマに「ハートネットTV　公開すこやか長寿」の公開イベントを各地で行った。

○身近なボランティアへの参加を誘う「NHKハートフォーラム」を実施した。

○高齢社会の生き方を描く「NHK銀の雫文芸賞2012」や，障害者の体験や福祉の実践を記録する「第47回NHK障害福祉賞」を実施し，その内容はテレビやラジオで放送した。

○福祉番組や事業団制作の福祉教材を貸し出す「福祉ライブラリー」できめ細かい情報を提供。

○チャリティーイベント「NHK福祉大相撲」「歌謡チャリティーコンサート」「N響チャリティーコンサートHOPE」などを行い，障害者や高齢者の施設・団体に必要とされるものを贈呈した。

なお，広い世代にボランティアへの参加を促す情報提供サービス「NHKボランティアネット」は12年９月をもって終了した。

## ８．日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき，被保険者と被扶養者に対して，保険給付・保健事業等を行っている。

12年度は，保健事業として各種予防接種や検診への経費補助，メンタルヘルスへの対応のほか，子宮頸（けい）がん等に関する啓蒙（もう）を積極的に行い，予防意識の浸透を図った。また，メタボリックシンドロームの予防および改善に向け，特定健康診査の受診勧奨や，特定保健指導の実施率の向上に取り組んだ。

## ９．日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と，退職者とその遺家族の救済，援護等を行うために，食堂の運営，物品販売，生涯生活設計相談，各種給付・貸付，各種保険の団体扱い，および転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。